

事務事業事後評価シート[平成27年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	企画部総務課		■担当係	統計係
■評価事業名称	統計グラフコンクール事業			
■事業開始年度				
■評価事業コード	010200 - 405	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	07 その他の事務		
	■基本施策	01 その他の事務(市民サービス)		
	■施策	01 企画部門(市民サービス)		
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	統計思想の普及とグラフ表現技術の向上を図るため、国、県のコンクールに合わせ毎年実施している。小中学校、高等学校及び一般から統計グラフを募集し表彰するもの。応募された作品は県、国のコンクールにも出品している。			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成27年度事業計画	平成27年度事業量実績
01	統計グラフコンクール事業	市民、統計調査員	小学生の部: 8点(4校17人)、 高校・一般の部: 2点(1人)、 パソコンの部: 26点(2校26人)	小学生の部: 27点(3校71人)、 高校・一般の部: 2点(2人)、 パソコンの部: 9点(1校25人)、 県コンクールにおいて8点入選

3. 投入コスト情報

(単位: 千円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	備考
直接事業費	23	25	27	30	
人件費	1,379	865	551	968	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	1,402	890	578	998	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	24年度	25年度	26年度	27年度	指標の説明
01	コンクール応募作品数	30	36	19	38	目標数に比べ増加した
02	コンクール参加者数	41	44	54	98	目標数に比べ大幅に増加した(複数人による合作が増加)
03	応募学校数	7	6	4	4	応募する学校が固定化傾向にある

事務事業事後評価シート[平成27年度事業]

04	応募作品1点当たりコスト					
05	参加者1人当たりコスト					

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- ☐ A. 順調
☒ B. 概ね順調
☐ C. 遅れている

達成状況の分析

前年度に比べ応募作品数は倍増した。1作品を複数人で制作する合作が増え、参加者数も大幅に増加した。

問題点・課題等

応募する学校が固定化してきている。学校にはポスターコンクール、作文など多数の応募案内があり、取捨選択は学校・指導教諭の裁量に委ねられている状況にあり、グラフコンクールに応募してもらう取り組みを模索する必要がある。

1. 直接的な受益者の範囲

- ☒ 不特定多数に及ぶ
☐ 特定されるが多数に及ぶ
☐ 特定少数に限定される

2. 事業廃止の影響

- ☐ 大きな不利益やリスクが生じる
☒ ある程度の不利益やリスクが生じる
☐ 不利益やリスクは小さい

3. 国・県・民間との競合関係の有無

- ☐ 類似の事業はない
☒ 類似の事業はあるが競合はない
☐ 類似の事業があり競合する

4. 事業へのニーズの変化

- ☐ ニーズが高まっている
☒ ニーズは変わらない
☐ ニーズが低下している又は合致しない

5. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- ☐ 順位が高い
☐ 順位が中程度
☐ 順位が低い

6. 施策の優先度(市民意識調査)

- ☐ 順位が高い
☐ 順位が中程度
☐ 順位が低い

7. 他市町村に比較しての優位性

- ☒ 先進的またはユニークな事業である
☐ 他と同程度の事業である
☐ 遅れている事業である

8. 実施主体の代替性

- ☒ 民間委託等の拡充は難しい
☐ 民間委託等の拡充が十分に可能
☐ 全部委託や実施主体の移行が可能

9. 経済性・効率性の向上

- ☒ 今以上の効率化や改善は難しい
☐ 効率化や改善を図ることは十分に可能
☐ 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策

小学生から取り組むことのできる統計グラフコンクールは統計思想の普及に有効である。PRに力を入れて応募学校数を増やし、更なる普及啓発を図る。

■今後の方向性

- ☐ I. 拡充
☒ II. 継続
☐ III. 縮小
☐ IV. 廃止・休止
☐ V. 完了